

令和4年度
教職課程
自己点検評価報告書

中部大学国際関係学部
中部大学大学院国際人間学研究科
(国際関係学専攻)

令和4年12月

中部大学 教職課程認定学部・学科・大学院一覧

国際関係学部（国際学科）

国際人間学研究所（国際関係学専攻）

全体評価

教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組みについて、国際関係学部では、教職支援センターと協働しつつ概ね適切に実施できている。一方で、教職課程教育を通して育もうとする学修成果が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて十分に可視化がなされているとは言えないこと、教職課程における実務家教員が配置されていないこと、教職課程の質向上に特化したFD・SD活動が実施できていないこと、学部独自の教職課程に関する情報公表ができていないことについては、今後改善の余地がある。

学生の確保・育成・キャリア支援に関しても、国際関係学部では、1年次の「スタートアップセミナー」での教職課程ガイダンスや学部による教職課程履修継続条件の設定、および必要に応じた学科教職課程運営委員の教員による学生への指導など、概ね適切に実施できている。一方で、学年進行に伴い教職課程の履修を辞退する者も多く、なかんずく、中長期の海外留学を希望する学生にとっては、教職課程の履修には大きな障害となっている。今後は教職課程履修と両立するためのガイダンスをより綿密に実施することが必要である。

適切な教職課程カリキュラムに関しては、国際関係学部では、学部科目と教職課程科目との学修バランスを考慮しつつ、情報活用能力や課題発見、解決能力の涵養など今日的な教育の課題に対応出来るよう、学部の教員養成の目標や目的に沿ったカリキュラム編成が行われ、概ね適切に実施されている。一方で、教員養成に特化した、あるいはそれを主眼に置いた学部教職課程カリキュラムの編成、実施についてはまだまだ不十分であり、今後の検討や改善の余地は大きい。

国際人間学研究所国際関係学専攻では、「研究科及び専攻ごとの教育研究上の目的」、「ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの方針」、「教員養成のための目標及び該当目標達成のための計画」を踏まえた教職課程の運営態勢が概ね整い、適切なカリキュラムの編成が行われている。一方で、近年、継続的に教職課程の履修者がいないため、現状のチェックや改善が適宜行えているとは言えず、今後見直す余地がある。

中部大学国際関係学部
学部長 中山 紀子

中部大学大学院国際人間学研究所
研究科長 大塚 俊幸

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	3
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	11
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	17
III	総合評価	25
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	26
V	現況基礎データ一覧	27

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：中部大学国際関係学部
- (2) 所在地：愛知県春日井市松本町 1200
- (3) 学生数及び教員数

(令和4年5月1日現在)

【学部】

学生数： 教職課程履修9名／学部全体553名

教員数： 教職課程科目担当（教職・教科とも）16名／学部全体20名

(別途、教職科目担当4名)

【大学院】

学生数： 研究科全体19名

教員数： 教職課程科目担当（教職）31名／研究科全体62名

2 特色

1984年4月、本邦において「国際系」を標榜する第一陣の学部学科として国際関係学部は誕生した。社会科学系の国際関係学科と、人文社会系の国際文化学科、近年成長著しい中国語圏を学びの対象とした中国語中国関係学科の3学科体制であったが、学問領域の壁を取り払い、学びの自由度を高めることを目的として、2016年4月国際学科の1学科体制に生まれ変わった。

本学部は、国際化する社会の様々な現場で活躍できるよう、①社会で必要とされる知識・技能、②知識・技能を活用する思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持って多様な人間と協働し、学び続ける態度を身に着けた有識社会人を輩出することをディプロマ・ポリシーとして掲げている。

本学部の教職課程においても、歴史や地理を切り口として政治や経済のグローバル化を理解し、民族や宗教にまで視野を広げて学習成果を教示できる教員の養成を目指している。地理歴史や公民といった科目に対して、深い理解と幅広い知識を有しているだけでなく、複雑化する地域社会から学び続け、グローバルな視野を備えた新しい時代の教育の担い手として、地域と共にある多種多様な教育現場で社会に参画しうる教員を輩出することを目標としている。

1991年4月、国際関係学研究科国際関係学専攻（修士課程）として誕生して以来、2004年4月の国際人間学研究科設置を経て現在に到るまで、本専攻は、政治学、経済学、社会学、人類学などを基盤として、理論と現場感覚、思考力と応用力のバランスを取って、同時代的な社会開発の課題に取り組むことのできる国際人、知的文化人、高度専門職業人および教育研究者を育成することを目標としてきた。

本専攻の教職課程においても、国際社会における現代的な諸課題に関する高度な見識を深めるとともに、人類文化・社会の多様性の認識の上に立った個別の民族や国家の社会文化的個性の探求により、人類文化の総合的な理解を深めることで、現代国際社会の成り立

ちと現状を俯瞰的・総合的に高度な分析ができ、それを適確に次世代に伝達できる人材を育成することを目標としている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標を共有

基準項目 1-1-①

教職課程の目的・目標を、「卒業認定・学位授与方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

〔現状説明〕

教職課程の目的・目標については、本学の建学の精神「不言実行、あてになる人間」¹⁾を基本とし、大学としての基本理念と使命ならびに教育目標²⁾、学部・学科ごとの教育研究上の目的³⁾や学部・学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー⁴⁾を念頭に学部・学科の特徴も踏まえて、それぞれの学科が教員養成の目標を設定し、大学ホームページで広く公表している⁵⁾。

また、学部・学科を横断する総合的な教職課程の目標について、「豊かな教養、自立心と公益心、国際的な視野、専門的能力と実行力を備えた、信頼される教師」をめざす教師像とし、「教職課程ガイドブック」の冒頭で周知している⁶⁾。

国際関係学部においては、「学部および学科ごとの教育研究上の目的」、「ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの方針」を踏まえ、「教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画」を策定している。社会科学ならびに人文科学の立場から、国際関係・文化の動向・諸事象を、政治・経済・社会・文化等の知見をもって総合的・包括的、グローバルかつローカルな視点から考察し、国際化する社会のさまざまな現場で、実際に活躍できる国際社会における「不言実行・あてになる人間」を育成するべく教育の充実をはかってきた。

国際学科では、政治・経済と社会・文化の繋がりを重視し、学際的(inter-disciplinary)な視野を備えつつ、国際的な知識・感性・倫理観・言語能力・実践力を持った、グローバルな人材を育成している。

教員養成に対しても、歴史や地理を切り口として政治や経済のグローバル化を理解し、民族や宗教にまで視野を広げて学習成果を教示できる教員の養成を目指している。地理歴史や公民といった科目に対して、深い理解と幅広い知識を有しているだけでなく、複雑化する地域社会から学び続け、グローバルな視野を備えた新しい時代の教育の担い手として、地域と共にある多種多様な教育現場で社会に参画しうる教員を輩出することを目標としている⁷⁾。

大学院国際人間学研究科においては、「研究科及び専攻ごとの教育研究上の目的」、「ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーの方針」を踏まえ、「教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画」を策定している。人文系諸科学と社会系諸科学の全体分野を展望する位置に立って、広く人間科学のフロンティアを拡大し、グローバルか

つローカルな諸問題に挑戦できるような知的・創造的能力を養い、生活世界の様々な現場から高度な社会貢献を目指した実践的研究を遂行できる人間を育成するべく教育の充実を図ってきた。

国際関係学専攻では、政治学、経済学、社会学、人類学などを基盤として理論と実際、思考力と応用力のバランスを取りながら、広く国際政治、国際経済、人類文化上の諸問題、さらには同時代的な人間と社会の諸問題、平和構築、国際協力等の具体的・実践的な諸課題に取り組むことのできる高度専門職業人、有識社会人及び教育研究者を育成することを目標としている。

教員養成に対しても、国際社会における現代的な諸課題に関する高度な見識を深めるとともに、人類文化・社会の多様性の認識の上に立った個別の民族や国家の社会文化的個性の探求により、人類文化の総合的な理解を深めることで、現代国際社会の成り立ちと現状を俯瞰的・総合的に高度な分析ができ、それを適確に次世代に伝達できる人材を育成することを目標としている⁸⁾。

〔長所・特色〕

国際学科においては、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、全学共通教育科目、学科基礎科目、学科専門科目、学科応用科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせたカリキュラムを設置している。教職課程カリキュラムにおいても、政治学、経済学などの社会科学と歴史学、文化人類学などの人文科学との学際的な科目配置と、欧米のみならず、アジア・アフリカにも及ぶ全地球的な視点での教育研究を特徴としている⁹⁾。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学学生便覧 2021 年度、学園建学の精神
- 2) 中部大学学生便覧 2021 年度、中部大学の基本理念・使命・教育目的、p. ①
- 3) 中部大学学生便覧 2021 年度、学部および学科ごとの教育研究上の目的、pp. ②-⑤
- 4) 中部大学学生便覧 2021 年度、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、pp. ⑥-⑪
- 5) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画
- 6) 教職課程ガイドブック、p. 1
- 7) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、国際関係学部 国際学科
- 8) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、国際人間学研究所 国際関係学専攻
- 9) 中部大学学生便覧 2021 年度、国際関係学部 教職課程、pp. 134-139

基準項目 1-1-②

育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

〔現状説明〕

教職課程の目的・目標の共有については、毎年年度末に学科主任および教職課程運営委員会に属する教職課程担当教員を通して各学科に見直しを依頼しており、その集約した結果を毎年5月に更新し、大学のホームページで公開している¹⁾。また、教職課程教育を計画的に実施するために、教職課程を志望する学生の把握（1年生の春学期）と関係学科への情報共有をはじめ、各学期で行われる教職課程ガイダンスにおいて「教職課程ガイドブック」²⁾を活用しながら教職課程の登録から教育実習、教員採用につながる指導を実施している。

国際学科においては、毎年年度末に教職課程運営委員会に属する教職課程担当教員と学部長、学科主任らの執行部と協議の上、必要に応じて「教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画」の見直しを行い、改訂する場合は学部教授会に諮ることでその内容を適宜、学部の教職員と共有することになっている。近年改訂が行われたことはない。

国際関係学専攻においても、毎年年度末、国際学科と同時期に「教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画」の見直しを行っている。近年改訂が行われたことはない。

〔長所・特色〕

教育実習の訪問指導においては、学科主任と指導教授、教職課程担当教員とが分担して実施している。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画
- 2) 教職課程ガイドブック

基準項目 1-1-③

教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

〔現状説明〕

学期ごとに学生自身が学修の成果を履修カルテに記入するとともに、教職課程教員による評価を学生に通知してあわせて記入し、学生が自分の達成度を具体的に確認するように

している¹⁾²⁾。

国際学科においては、学部パンフレットにて「取得可能な資格」として教員免許状の取得が可能なことが示されており³⁾、学生便覧にても教科及び教科の指導法に関する科目が、本学部における科目区分とどのような関係にあるのかが示されている⁴⁾が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化が図られている状況にはない。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

教職支援センター作成の履修カルテに加えて（あるいは統合する形で）、学習成果が具体的に示される学科独自の履修カルテを作成する必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 教職課程ガイドブック、履修カルテ・ボランティア活動、p. 11
- 2) 履修カルテ
- 3) 国際関係学部パンフレット、p. 18
- 4) 中部大学学生便覧 2021 年度、国際関係学部 教職課程、pp. 134-139

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

基準項目 1-2-①

教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。

〔現状説明〕

各学科では、「教科に関する科目」について、「教職課程認定基準」に適合する専任教員を必要数配置するとともに、実務家教員も在籍し、研究者教員との協働体制が構築されている。

また、全学的な教職課程の指導を行うため、人間力創成総合教育センター（2022 年度からは人間力創成教育院に改称）の専門職教育プログラム（教職課程）に、「教育の基礎的理解に関する科目」等（いわゆる教職専門科目）の担当として「教職課程認定基準」に定められた必要専任教員（4 名）を配置している。ただし、すべて研究者教員である。

各学科から教職課程担当教員 1 名が、教職課程運営委員会に参加して、「教職課程」専任教員や事務職員と連携して教職課程を運営している¹⁾。

事務手続等については、教職支援センターを置き、教育実習を含む教職課程に関する事務手続等を行なうとともに、「教職課程」専任教員と協力して、教職課程ガイダンス等を行っている。

国際学科においては、「教科に関する科目」について、「教職課程認定基準」に適合する専任教員を必要数配置しているが、すべて研究者教員である。

国際関係学専攻においても同様である。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

「教職課程」の教員に実務家教員を加えて、実践的な指導や地域との連携を充実させていくことが望まれる。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学教職課程規程 第5条

基準項目 1-2-②

教職課程の運営に関して全学組織（教職支援センター等）と学部（学科）の教職課程担当者間で適切な役割分担を図っている。

〔現状説明〕

本学では教職課程の運営について、全学的組織として教職課程運営委員会を組織し、対応している。具体的には、「教職課程」専任教員、各学科の教職課程担当教員、教務支援課・人間力創成総合教育センター事務室・教職支援センターの事務員をメンバーとし、課題を協議して分担し対応している¹⁾。

教育実習について、教職支援センターは、学生と学校や教育委員会等との間に立って事務手続きを行い、情報を集約して各方面に提供し、「教職課程」専任教員は、教職支援センターと協力して、教職課程ガイダンスや教育実習ガイダンス、さらに事前・事後指導を行う。

各学科の教職課程教員は、情報を受けて、分担して実習先を訪問し、研究授業を参観して指導を行う。また、各学科は教職課程履修継続条件を設定し、進級時に履修継続の可否の判断と指導を行う。

〔長所・特色〕

教職支援センターを置き、主に教育実習に関わる事務手続きや教職課程履修者の登録情報の管理、教員採用・ガイダンス情報の発信などを行い、履修に関わる相談窓口となって、課題により、「教職課程」専任教員や各学科の教職課程担当教員と連携して対応している²⁾。

〔取り組み上の課題〕

教職支援センターを拡充して、実務経験のある専門職員を配置し、日常的に教職指導の相談に応じられる体制が望ましい。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学教職課程規程 第5条
- 2) 教職課程ガイドブック、中部大学のサポート体制、p.6-7

基準項目 1-2-③

教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT教育環境の適切な利用についても可能となっている。

〔現状説明〕

コンピュータ実習室のほか、教室やラウンジ、食堂などに無線LAN・ネットワークが整備され、随時、PCを活用することができる。図書館に、教材研究のための教科書や教育関連文献を所蔵するとともに、教職支援センター前にも、教科書などの関連書籍を配置・貸し出している。電子黒板とタブレットを2022年度に整備する計画を立てた。

国際学科においては、一部の外国語科目にてCALL教室を使用している。2020年度のコロナ禍発生以降、ICT教育環境の適切な利用ができるよう遠隔授業実施のための学部内勉強会を実施した¹⁾。

国際関係学専攻においては、全学的なもの以外で、独自の施設・設備は整備されていない。

目下、「自律学習の場」「多言語使用の場」「異文化交流の場」「国際的リーダー養成の場」となるようなグローバルプラザ（別名Glocal Forest）（仮）設置計画が進行中である²⁾。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

グローバルプラザ完成後、教職課程教育に資するような運用法の考案、実施が必要である。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) コロナ禍下の文系学部による遠隔授業講習会 - 国際関係学部2020年春学期奮闘記 -、中部大学教育研究、2020年12月、pp.79-91
- 2) 2021年度第12回国際関係学部教授会議事、資料6_GlocalForest検討委員会

基準項目 1-2-④

教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）やSD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。

〔現状説明〕

本学は毎学期末に学生による授業評価・教員による授業自己評価を Web により各科目共通の設問内容で実施している¹⁾。授業評価の結果は、今後の授業改善のための資料として、また、教員を対象とした教育活動顕彰制度のポイントとしても活用している。

また、全国私立大学教職課程協会や東海・北陸地区私立大学教職課程研究連絡懇談会などの研究集会や情報を FD・SD の場として活用している。

国際学科においては、教職課程の質的向上のためだけに、授業評価アンケートの活用や、FD・SD を実施しているわけではないが、「国際関係学部 FD 委員会」が教授会にて活動計画案を発議し、その議を経て決定し実施している²⁾。

〔長所・特色〕

国際学科においては、課題解決型授業（PBL）「ハイブリッド・プロジェクト」の実施を通じて、学生の最新の学修ニーズを確認した後、学部構成員による情報共有を推進し、他の授業科目にもフィードバックし、専任教員が担当する授業のより一層の質の向上を推進している。

「国際関係学部 Web ポートフォリオ」の一層の活用を図る。具体的には、レポート等の成果物を逐次アップする過程をとおして、学生が主体的に学修状況を把握できるように指導する。

本学が推進するSDGsにかかる学部の講演会、研究会を実施したことで「授業外の学びの機会」を提供することができ、学生のモチベーションの向上と、教員の知見を深めることができた³⁾。

〔取り組み上の課題〕

国際学科においては、教職課程の質向上により関連した FD・SD 活動を行う必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学ホームページ、学生による授業評価・教員による授業自己評価・授業改善アンケート・Cumoc
- 2) 2021 年度 学部等における FD 活動推進計画書、2021 年度第 1 回国際関係学部教授会資料
- 3) 2021 年度 学部等における FD 活動評価点検報告書、2022 年度第 2 回国際関係学部教授会資料

基準項目 1-2-⑤

教職課程に関する情報公表を行っている。

〔現状説明〕

教職課程に関する情報公表については、「教員免許法施行規則第 22 条の 6」に定められた情報公開に基づき、以下の項目について毎年 5 月時点での状況をまとめ、大学ホームページで広く公表している¹⁾。

- 1) 教員の養成のための目標及び当該目標を達成するための計画
- 2) 教員の養成に係る組織及び教員の数、各教員が有する学位及び業績並びに授業科目
- 3) 教員の養成に係る授業科目、授業科目ごとの授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- 4) 卒業者の教員免許状の取得の状況
- 5) 卒業者の教員への就職の状況
- 6) 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

国際学科、国際関係学専攻としては、教職課程に関する情報公表を独自には行っていない。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

国際学科、国際関係学専攻独自の教職課程に関する情報公表を行うことを検討する。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学ホームページ、教員養成の状況（情報公表）

基準項目 1-2-⑥

全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、この自己点検評価を通じて機能しつつある。

〔現状説明〕

教職課程に関する諸問題等については全学の教職課程教員と各学科の教職課程担当教員及び事務職員から構成される教職課程運営委員会を組織し、この会議の中で意思決定をしている。教職課程の自己点検評価の実施について、2021年度は教職課程運営委員会を2回開催し、準備ワーキンググループをつくって検討・準備を進めてきた¹⁾。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

今回の自己点検評価の結果を受けて、教職課程の在り方を見直し、よりよい改善がはかれる態勢を構築する。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 2021年度教職課程運営委員会第1回および第2回議事録

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

基準項目 2-1-①

当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。

〔現状説明〕

本学に入学を希望する受験生に対しては「中部大学大学案内」¹⁾やホームページ²⁾を通して取得できる免許の種類や教職課程に関する注意事項との情報発信している。また、2021年には、高校生向けに開催するオープンキャンパスに向けて教職課程を紹介するパネルを作成して広く教職課程について紹介する試みも行った。

入学後 5～6 月に教職課程履修登録説明会を実施し、教職課程履修条件と履修継続条件を明示し、教職課程の仕組みやスケジュール、免許取得の要件を理解させた上で、教職を志望する意志を確認するレポート（1,000 字）を添えて教職課程の登録をさせている³⁾。

国際学科においては、オープンキャンパスの学部紹介時に、取得可能な資格のうち高等学校教諭一種免許状（公民・地理歴史）を示している。学部ウェブサイトにおいても、デジタルブック形式で同様のことを紹介している⁴⁾。また、入学後は1年次に「スタートアップセミナー」にて、教職課程履修に関する案内を行っており、希望者には個別に面談する形式で疑問や不安を解決するよう心がけている。

国際関係学専攻においては、各学期の履修オリエンテーション時に、在籍者の希望に応じて教職課程についての説明を行っている。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

国際学科においては、中長期の海外留学を希望する学生に対して、教職課程履修と両立するためのガイダンスをより綿密に実施しなければならない。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学ホームページ、大学案内（デジタルブック）、p. 45
- 2) 中部大学ホームページ、教職課程
- 3) 教職課程履修登録説明資料
- 4) 国際関係学部ホームページ、国際関係学部国際学科デジタルブック

基準項目 2-1-②

「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。

〔現状説明〕

本学は、1年生の秋学期から教職課程の科目を開講しており、1年生は春学期に教職課程履修に向けたガイダンスの出席と所定の手続きしなければ、教職課程の科目を履修できないことにしている。

また、国際学科においては、通算 GPA 等による基準を設けており、毎年度末にその基準を満たさない場合は、教職課程の継続を原則認めない。ただし、基準を満たさない学生については各学科にて面談等を行い、教職課程継続の意思確認や適切な指導等を行った上で継続を認める場合がある¹⁾。

国際関係学専攻においては上記のような、履修を開始・継続するための基準は設けていない。

〔長所・特色〕

教職課程履修継続にあたっては、各年度末に通算 GPA2.0 を上回ることを求めている一方で、机上の学科の成績だけでなく、「行動できる、心豊かな人間」という本学部の教育理念・使命を体得した教員を目指すことを履修者に求めている。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 教職課程ガイドブック、教職課程の履修にあたって、p.9

基準項目 2-1-③

「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。

〔現状説明〕

各学科においては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに則り学科の教育課程を編成し、豊かな教養と専門的な知識を身につけるべく教育を行っている。教職課程の学生は学科の専門科目を学びながら教職課程の科目も履修する必要があり、1年生の春学期に教職課程の履修条件と履修継続条件を明示した上で教職を志望する意思を示した者のみ教職課程科目を履修できるようにしている。なお、大学としては教職課程には定員を設けておらず、希望したものすべて受け入れるようにしている。毎年、1年生時点の国際関係学部における教職課程の志望者は5人前後、4学年合計しても10人程度（途中辞退者が出るため）であり、適正な人数を受け入れている。国際関係学専攻においては、近年、教職課程の履修者はいない。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

・海外長期留学（研修）参加と教職課程履修の両立の困難さをカリキュラム的に解決することが求められている。

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

基準項目 2-1-④

「履修カルテ」を活用する等、学生の適性或資質に応じた教職指導が行われている。

〔現状説明〕

毎学期はじめに行う教職課程ガイダンスで、教職課程の履修指導を行なうとともに、前の学期の学修のふり返りを、学生各自で履修カルテに記入し、教員が確認している、また、いわゆる教職専門科目において、教職をめざすうえで必要な資質・能力を評価し学生にフィードバック、履修カルテに反映させている¹⁾。

国際学科においては、春学期の教職課程ガイダンスと前後して、教職課程履修者に対して、対面、遠隔方式などさまざまな方法により指導を行っている。

〔長所・特色〕

中長期の海外留学希望者に対して、教職課程履修と両立できるような留学計画が立てられるよう指導を行っている。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 履修カルテ

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

基準項目 2-2-①

学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握している。

〔現状説明〕

教職支援センターでは、4年生対象の進路希望調査を、教職課程ガイダンスで定期的に行い、教職志望を把握した上で、情報提供を行っている。

国際学科においては、各学期の教職課程ガイダンスと前後して、教職課程履修者に対して、対面、遠隔方式などさまざまな方法を通じて教職への意欲や適性の把握を行っている。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

教職課程履修者は必ずしも多くはないが、教職に就くことを強く希望する学生に対する支援のより一層の充実を図る必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

基準項目 2-2-②

学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。

〔現状説明〕

各学科では指導教授やゼミ担当教員を通じて学生のニーズや適性を把握し、その情報をキャリア支援課と共有している。また、キャリア支援課では2年生から始まる就職ガイダンスで学生に就職活動の準備を進めるとともに、インターンシップや学内業界研究会、面接指導などを行い、4年生での就職活動のサポートをしている¹⁾。

また、教職課程については、適切に編成された教育課程を学ぶとともに、学期ごとにガイダンスを行い、履修カルテを記入することで自分の学びの進行を確認するとともに、教育実習の準備を進めることで教職に対する意思を確認している。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

学生のニーズや適性に応じて適切なキャリア支援をより組織的、効果的に行う必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 中部大学ホームページ、中部大学のキャリア教育支援体制

基準項目 2-2-③

教職に就くための各種情報を適切に提供している。

〔現状説明〕

教職支援センターでは教員採用に向けた準備として教員採用試験対策講座の実施、東海3県の教員採用試験過去問題や教職関連雑誌の閲覧提供、教員採用試験受験状況の把握、教職求人情報の提供を行っている¹⁾。

国際学科においては、教職支援センターからの教員採用試験関連情報や教職求人情報などを在学生を中心に情報提供を行っている。

〔長所・特色〕

教員採用に向けた準備に関連する情報は、教職支援センターと連携して情報共有を行い、在学生や卒業生に情報提供を行う体制を確立している。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 教職課程ガイドブック、中部大学のサポート体制、pp. 6-7

基準項目 2-2-④

教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。

〔現状説明〕

教職支援センターでは、3年生の希望者に外部業者の運営する教員採用試験対策講座を提供している。学生の負担軽減のため、大学から半額程度の補助がある¹⁾。

また、卒業生の進路アンケートを実施し、教員免許状取得者の勤務状況を把握し、本学教職課程運営および学生指導の参考としている。また、教職支援センターに寄せられた教員採用情報を掲載し、広く卒業生に対しても公表している²⁾。

「教職課程」教員有志が独自に自主ゼミを組織し、教員採用試験対策や面接指導を行なっている。

国際学科においては、免許状取得件数や教員就職率を必要以上に高めるためだけの工夫は行っていないが、教職課程履修学生のニーズや意向を把握することに努め、適切な助言や指導ができるよう留意している。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

教員採用試験対策講座の受講者が減少傾向にあるため、学生のニーズに適しているか、

学生に評価アンケートを実施して、見直しを検討していきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 教職課程ガイドブック、教員採用試験対策講座、p. 33
- 2) 中部大学ホームページ、卒業生の皆様（教員採用情報等）

基準項目 2-2-⑤

キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

〔現状説明〕

「教職課程」教員が主催して、毎年12月に教職についている卒業生数名を招き、2年生を対象に、教職の実際についてお話を聴く会を開いている¹⁾。また、教職実践演習においても、現職の高等学校校長をお招きして、教職の最新事情について講話を聴くことで、教職への希望を新たにしている²⁾。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

キャリア支援を充実させる観点から、国際学科、国際関係学専攻においても教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携をより図る必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 教職課程ガイドブック、教職課程4年間の流れ、p. 20
- 2) 教職実践演習（中・高）2021年度シラバス

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目 3-1-①

教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。

〔現状説明〕

本学では、各学期に CAP 制を採用しており、国際関係学部は 1 年生春学期、4 年生春学期と秋学期はそれぞれ 20 単位、1 年生秋学期から 3 年生秋学期まではそれぞれ 24 単位としている。一方、教職課程の学生は、この履修上限の制限とは別に教職課程の科目を履修することが認められている。一般の学生に比べ、多くの科目を半期で履修することになるため、教職課程の学生は、学科の学修と教職課程の学修のバランスを考えながら、4 年次に行われる教育実習に向けて学科の教職課程担当教員の指導を受けながら授業を履修している。

〔長所・特色〕

国際学科では、教員免許状取得に必要な教職課程の科目・学科専門科目を計画的に履修できるよう調整がされている。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

基準項目 3-1-②

学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。

〔現状説明〕

卒業要件に入らない、いわゆる「教職専門科目」について、人間力創成総合教育センターの専門職教育プログラム（教職課程）において編成し、今日の学校教育を強く意識した「教職課程コアカリキュラム」に対応したカリキュラムを実施している。

国際学科では、公民・地理歴史のいずれの課程においても、学部教育科目の導入科目から「国際政治経済科目」、「多文化共生科目」、「世界と日本研究家目」などの学科専門科目に到るまで系統的に漸進的に高位のレベルの科目を履修できるようカリキュラムが編成されている¹⁾。

国際関係学専攻では、指導教員の指導の下、公民科の課程において、現代社会を高度に読み解き、伝達する能力を身につけた教員の養成を目指したカリキュラムが準備されている²⁾。

〔長所・特色〕

国際学科では、高一種免（地理歴史）および高一種免（公民）においては、「法学概論」「政治学概論」「経済学概論」「世界史概論」「人文地理学」などの基本科目を配している。さらに本学科の特徴である「学際的な視野を備え、分析力と実践力を持つ社会科教員」の育成のために、「国際協力論」「比較社会論」「比較宗教学」「人間と環境」などを配している³⁾。

国際関係学専攻では、「政治学」、「経済学」、「国際法」、「文化人類学」、「社会学」といった分野にかかる専門的な社会科目を配置するとともに、国際社会を総合的に理解するために必要な、「国際政治学特論」、「国際経済学特論」、「国際社会学特論」、「文化人類学特論」などの科目を配置している⁴⁾。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学学生便覧 2021 年度、国際関係学部教職課程（教育職員免許状の取得）、pp. 134-139
- 2) 中部大学大学院学生便覧 2021 年度、教職課程、p. 95、99
- 3) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、国際関係学部 国際学科
- 4) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、国際人間学研究科 国際関係学専攻

基準項目 3-1-③

教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。

〔現状説明〕

卒業要件に入らない、いわゆる「教職専門科目」について、人間力創成総合教育センターの専門職教育プログラム（教職課程）において編成し、「教職課程コアカリキュラム」と教員育成指標におおむね対応したカリキュラムを実施している。「教職課程コアカリキュラム」も今日の学校教育への対応を求めるものであり、それぞれの科目の意義にもとづき、今日の学校教育に対応する内容を編成している¹⁾。

国際学科においては、歴史や地理を切り口として政治や経済のグローバル化を理解し、民族や宗教にまで視野を広げて学習成果を教示できる教員の養成を目指している。地理歴

史や公民といった科目に対して、深い理解と幅広い知識を有しているだけでなく、複雑化する地域社会から学び続け、グローバルな視野を備えた新しい時代の教育の担い手として、地域と共にある多種多様な教育現場で社会に参画しうる教員を輩出することを目標としたカリキュラムを編成している。これらの科目を履修することにより、「多文化共生社会」の道を探り、「持続可能な社会」実現を構想しうる教員の養成が可能になると考えている²⁾。

国際関係学専攻においては、政治学、経済学、社会学、人類学などを基盤として理論と実際、思考力と応用力のバランスを取りながら、広く国際政治、国際経済、人類文化上の諸問題、さらには同時代的な人間と社会の諸問題、平和構築、国際協力等の具体的・実践的な諸課題に取り組むことのできる高度専門職業人、有識社会人及び教育研究者を育成することを目標としている。国際社会における現代的な諸課題に関する高度な見識を深めるとともに、人類文化・社会の多様性の認識の上に立った個別の民族や国家の社会文化的個性の探求により、人類文化の総体的な理解を深めることで、現代国際社会の成り立ちと現状を俯瞰的・総合的に高度な分析ができ、それを適確に次世代に伝達できる人材を育成することを目標としたカリキュラムを編成している。これらの科目を履修することにより、現代国際社会を高度に読み解き、伝達する能力を身につけることができるとともに、高度な教養と専門性を備えた教員の養成が可能になると考えている³⁾。

〔長所・特色〕

国際学科においては、歴史や地理を切り口として政治や経済のグローバル化を理解し、民族や宗教にまで視野を広げて学習成果を教示できる教員の養成を目指している。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学 2021 年度シラバス
- 2) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、国際関係学部 国際学科
- 3) 中部大学ホームページ、教員養成のための目標及び該当目標を達成するための計画、国際人間学研究所 国際関係学専攻

基準項目 3-1-④

今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。

〔現状説明〕

いわゆる「教職専門科目」について、教科指導法科目、特に「教育方法論」において、ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる指導法を盛り込み、対応を充分可能となるよう

にしている¹⁾。

国際学科においては、教科指導法科目にて ICT 機器を活用した教材開発が指導されている。

〔長所・特色〕

国際学科においては「社会科・地理歴史科教育法」にて ICT 機器を活用した教材開発の意義とその方法、教材の構造化が指導されている²⁾。

〔取り組み上の課題〕

「教職専門科目」の仕上げとなる「教職実践演習」においても、ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる指導法を確実に習得できるよう、シラバスに明記し充実させていきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

- 1) 中部大学 2021 年度シラバス、教育方法論
- 2) 社会科・地理歴史科教育法 I、中部大学シラバス

基準項目 3-1-⑤

アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

〔現状説明〕

教職課程に限らず、本学の授業では個人またはグループでそれぞれの課題を設定し、調査・発表を行い、その後ディスカッションをする形式の授業が数多く開講されており、これを受講することで課題発見や課題解決等の力量を育成している。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

国際学科においては、現在のところアクティブ・ラーニングやグループワークを促す科目が充分であるとは言えない。今まで以上に増やし、課題発見や課題解決等の力量育成を目指す必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

基準項目 3-1-⑥

教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法等を学生に明確に示している。

〔現状説明〕

教職課程に限らず、本学はシラバスにおいて各科目の授業計画（毎回の内容）や授業方法、成績の評価方法及び評価基準を学生に明示している。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

基準項目 3-1-⑦

教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。

〔現状説明〕

教職課程履修継続条件の上に、教育実習に参加するための履修要件を、「3年次終了までに、履修すべき『教育の基礎的理解に関する科目』等」および「各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）」の必修科目をすべて修得していること。」と定め、「教職課程ガイドブック」に明記し、修得したことをふまえて教育実習に参加するよう、ガイダンスや事前指導において繰り返し指導している¹⁾。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

教育実習を実りあるものとするために、教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、指導を行う必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 教職課程ガイドブック、教育実習について、pp. 22-23

基準項目 3-1-⑧

「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

〔現状説明〕

毎学期はじめに行う教職課程ガイダンスで、教職課程の履修指導を行なうとともに、前の学期の学修の振り返りを、学生各自で履修カルテに記入し、教員が確認している。また、いわゆる教職専門科目において、教職をめざすうえで必要な資質・能力を評価し学生にフィードバック、履修カルテに反映させている¹⁾。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

履修カルテは、教職課程で学んだことが集約されているはずなので、教職実践演習の指導に活用していきたい。

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 履修カルテ

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

基準項目 3-2-①

取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している。

〔現状説明〕

教育実習事前指導の一貫として、教育実習を予定している教科等の指導案の作成とそれを用いた模擬授業の指導を行い、実践的指導力の育成を図っている。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

国際学科、国際関係学専攻においても、教職課程科目のなかに取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を増やすよう授業内容の変更を行う必要がある。

〈根拠となる資料・データ等〉

基準項目 3-2-②

様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。

〔現状説明〕

教職支援センターでは、学校ボランティア募集の情報を掲示板やホームページで案内している。また、コロナ禍以前では学校見学や学校一日体験を企画・実施していた。また、「教職課程ガイドブック」¹⁾に体験活動を記録するようにしている。

国際学科らしい体験活動としては、海外留学（研修）があるが、国際センター主催のプログラムの他に、カナダ、マレーシアなどで実施する学科独自のプログラムを持っている。

〔長所・特色〕

国際学科においては、独自の海外留学（研修）プログラムを用意している。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 教職課程ガイドブック、充実した学生生活を送ろう、p. 19

基準項目 3-2-③

地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。

〔現状説明〕

「教職課程」教員が主催して、毎年12月に教職についている卒業生数名を招き、2年生を対象に、教職の実際についてお話を聴く会を開いている¹⁾。また、教職実践演習においても、現職の高等学校校長をお招きして、教職の最新事情について講話を聴く²⁾。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

1) 教職課程ガイドブック、教職課程4年間の流れ、p. 20

2) 中部大学2021年度シラバス、教職実践演習（中・高）

基準項目 3-2-④

大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。

〔現状説明〕

毎年1月に開催される愛知県教育委員会の主催する「教育実習受入れに関する打合せ会」に参加し、実習校からの反省点や要望を持ち帰り、教職担当教員と共有することで、次年度以降の事前指導に活かしている。また、その際に次年度の「教育実習受入れ要項」が配布されるので、要項に従って申込み等を行っている。

〔長所・特色〕

なし

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

基準項目 3-2-⑤

教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

〔現状説明〕

教育実習について、教職支援センターは、学生と学校や教育委員会等との間に立って事務手続きを行い、情報を集約して各方面に提供している。

「教職課程」専任教員は、教職支援センターと協力して、教育委員会の「教育実習打合せ会」に参加し、その総括をふまえて、教職課程ガイダンスや教育実習ガイダンス、さらに事前・事後指導を行っている。

また、国際学科の教職課程教員は、情報を受けて、分担して実習先を訪問し、研究授業を参観して指導を行っている。

〔長所・特色〕

本学部の教育実習校との連携の特色として、本学部の教育実習は母校実習が大半を占めているが、実習校との内諾手続き等については必要時、教職課程担当教員が学生の個別指導や個別相談に応じ、教職支援センターと連携し情報共有・共通理解を図り、教育実習の充実に努めていることである。また実習校訪問については、学科主任や指導教授、教職課程担当教員が分担して訪問し、報告書を作成している。

〔取り組み上の課題〕

なし

〈根拠となる資料・データ等〉

なし

Ⅲ 総合評価

国際関係学部、国際人間学研究科国際関係学専攻における、教職課程の指導において評価できることは以下に記すとおりである。

第一に、教職課程運営組織において、教職支援センターの職員および専任教員と、各学部選出の委員から構成される教職課程運営委員会が組織され、柔軟かつ効率的に教職課程の運営と履修学生への指導が実施できる体制を構築していることである。

第二に、教職課程履修においては、1年次春学期から履修を希望する学生の把握を行い、各学期に初めに教職課程ガイダンスを開催するなど、計画的に教職課程教育を実施できるようカリキュラムを設計していることである。ガイダンスの際には、『教職課程ガイドブック』を活用し、教職課程履修条件と履修継続条件を明示し、教職課程の仕組みやスケジュール、免許取得の要件を理解させている。

他方、国際関係学部、国際人間学研究科国際関係学専攻における今後の課題は以下に記すとおりである。

第一に、教職課程教育を通して育もうとする学修成果が、現時点においては必ずしも「卒業認定・学位授与の方針」を十分に踏まえて具体的に示されているとは言えず、今後の改善が必要である。

第二に、教職支援センター作成の履修カルテに加えて（あるいは統合する形で）、学習成果が具体的に示される学科独自の履修カルテを作成する必要がある。

第三に、国際関係学部においては、FD、SD活動を積極的に行っているが、教職課程の質向上に特化した活動実施については今後の検討の余地がある。

第四に、国際関係学部においては、中長期の海外留学を希望する学生に対して、教職課程履修と両立するためのガイダンスをより綿密に実施しなければならない。

第五に、国際人間学研究科国際関係学専攻においては、教職課程の履修を促す仕組みを設ける必要がある。

上記五点は、国際関係学部、国際人間学研究科国際関係学専攻が取り組むべき課題である。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

本報告書は以下のプロセスを経て作成された。

国際関係学部国際関係学部学科教職課程（高等学校教諭一種免許状（地理歴史）、高等学校教諭一種免許状（公民））、大学院国際人間学研究科国際関係学専攻教職課程（高等学校教諭専修免許状（公民））の「教職課程自己点検評価報告書」の作成に当たっては、国際学科教職担当教員が2022年7月に開催された教職課程運営委員会に出席し、会議にて示された全学的な指示を持ち帰り、学部長、国際学科主任など学部執行部に対して報告を行った。

教職運営委員会で示された「作成の手引き」を基に、教職担当教員が本学部における「教職課程自己点検評価報告書（案）」を作成した。完成した「教職課程自己点検評価報告書（案）」を学部長へ報告し、加筆・修正等の後、学部長の承認を経て、2022年10月末日、教職課程運営委員会へ提出へと至った。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人中部大学					
大学・学部名 中部大学：国際関係学部 中部大学大学院：国際人間学研究科					
学科・コース名（必要な場合） 中部大学：国際学科 中部大学大学院：国際関係学専攻					
1 卒業者数、教員免許取得者数、教員採用者数等				学部	研究科
① 昨年度卒業者数				133	0
② ①のうち、就職者数 （企業、公務員等を含む）				120	0
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 （複数免許取得者も1と数える）				0	0
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）				0	
④のうち、正規採用者数					
④のうち、臨時的任用者数					
2 教員組織					
教員数	教授	准教授	講師	助教	その他（ ）
学部	11	6	3	0	
研究科	44	14	2	2	
相談員・支援員など専門職員数					

※上記1・2表ともに、国際人間学研究科全体の人数を示す。